

2022年度

自己点検・評価報告書

令和5年3月31日

学校法人東京日新学園

東京商科・法科学院専門学校

基準1 教育理念・目的・育成人材等

大項目総括

教育理念・目的・育成人材等については以下の通りである。

◆教育理念・目的

本校は、社会人となる前の最終学歴校として、職業（仕事）に関する専門知識や社会性、並びに経済的に自立した社会人生活を送るための知識や諸制度の理解を目的とした教育を、教職員、提携企業、講師等、本校に関わる全ての人と共に実践いたします。

◆教育目標（育成人材像）

(1) 本校は、学生自身が目標とする進路の実現を支援し、人生100年時代を生き抜く力を養います。

そのための教科教育として、一般社会において有益な資格取得（公務員試験含む）や専門知識・スキルの習得を、また社会人教育として「プレ・キャリアスクール」の名のもとに、「挨拶」および「報告・連絡・相談」の習慣を身につけさせることにより、就職後5年程度の「初期のキャリア形成」を実現し、更なるキャリアアップを目指せる人材となるよう育成します。

(2) 今後の社会人生活において、環境の変化に対応した自分価値を生涯に渡り高めていく必要があることから、対面的な授業の他、オンラインやビデオオンデマンドによる授業を実施することにより様々な学び方を体験し、社会人になった後も学びが継続できるよう、その手法と姿勢を養います。

◆教育方針

本校は、実学教育・自主自立・和衷共同・知育体育の4点を教育方針とし、各教科指導、キャリア指導、クラス運営等全ての場面において学生を区別することなく平等に教授します。この方針を具体的に実現するため、共通の授業を基本としつつも各人の理解レベルに合わせた個別指導・補講等を実施し、「わからないことを明日に持ち越さない」を行動・指導の基本に置き、いつでも気軽に質問できる環境を整備し、学生の興味関心と理解度の促進を図ります。

1-1 理念・目的・育成人材像

小項目	自己評価	現状認識	課題/改善方策	参考資料
1-1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	4	◆基本的な事項や考え方は教職員会議や講師会で説明しており、内容の共有化が図られている。	◆特に無し。	・理事会資料 ・講師会資料 ・学則
1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	3	◆学校自体の検証や企業からの意見も取り入れながら、毎年度カリキュラムの見直しを実施している。	◆初期のキャリア形成の検証には、採用企業との情報交換が不可欠となる。	・理事会資料 ・講師会資料 ・学則
1-1-3 理念等の達成に向け、特色ある教育活動に取り組んでいるか	4	◆少人数制もあり、学生との距離感はいつでも相談できる環境にある。 ◆オンライン等による新たな学び方が日常的な授業に定着した。	◆教職員と講師を対象に外部講師による研修を実施したが、ITスキルの平均化までは至っていない。	・学校案内 ・研修資料
1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	3	◆PC教育は授業で実践している面はあるが、企業自体が環境の変化に不透明さを感じている現実もあり、大きく方向性を変えるには至っていない。	◆必要に応じて学科編成やカリキュラムを見直す必要も視野に入れておく。	・中期事業計画書

中項目総括	特記事項【特徴・特色・特殊な事情等】
<p>◆社会人となる前の最終学歴校として、学生の進路目標と就職後のキャリア形成を実現するため、会社の知名度や規模に惑わされることなく、学生の志向や性格を重視した指導を実施している。</p> <p>◆授業の内容や目的により、対面授業とオンライン授業とを区分し、学生に対する教育効果の検証を実施している。</p> <p>◆全授業に対し、意欲不足・理解不足による脱落者を発生させないため、「わからないことを明日に持ち越さない」方針を徹底し、必要に応じて個別指導・個別補講を実施している。</p> <p>◆オンライン授業や学生への連絡手段として、ITを日常的に活用する環境が向上した。</p>	◆特になし

【自己評価】 4 適切 3 ほぼ適切 2 やや不適切 1 不適切

基準2 学校運営

大項目総括

学校法人を含む学校運営については以下の通りである。

◆学校法人東京日新学園は、寄付行為に基づき、8月を除く毎月下旬に理事会・評議員会を開催し、報告事項、協議事項並びに意思決定等に関する議事を行い、議事録を作成する等、適切な運営に努める。

◆東京商科・法科学院専門学校は、理事会での決定事項を遵守し、8月を除く毎月中旬に、理事長・学校長・各部門責任者で構成する運営会議を開催し、業務報告による情報共有を図るとともに問題点や課題点の提起・協議・決定を行い、必要に応じてその結果を教職員に通知している。

2 - 2 運営方針

小項目	自己評価	現状認識	課題/改善方策	参考資料
2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	4	◆学校法人の運営方針は理事会、学校の運営方針は運営会議と意思決定機関が明確になっている。それぞれの決定事項は、必要に応じて教職員で共有し、該当部署において具現化されている。	◆教育成果に対する効果測定は、項目により単年度あるいは複数年度になるため、定点項目を設定し継続的に検証していく必要がある。	・理事会議事録 ・運営方針に関する資料

中項目総括	特記事項〔特徴・特色・特殊な事情等〕
<p>◆理事会は、学校法人の経営に関する意思決定機関として8月を除いて毎月開催し、経営数値の確認・検証の他、学生数、資格検定試験、就職活動、学生募集等、学校教育活動全般の状況について情報を共有している。</p> <p>◆運営会議は、学校あるいは学科運営に関する意思決定機関として8月を除いて毎月開催し、理事長・学校長・各部門責任者が出席のもとに学校教育活動全般についての情報共有や課題提起を行い、具体的な行動指針や解決手法を決定している。</p> <p>◆令和4年9月に仮校舎から現在の所在地（新校舎）に移転した。移転後の新校舎においても継続的に校舎環境を整備していたため、学生に対して不便をかける面もあったが、令和4年度末までに当初の計画は完了した。</p>	<p>◆令和5年3月に卒業した学生は、旧校舎から仮校舎、仮校舎から新校舎へと2回の校舎移転があった年次であるが、安定した学習環境の維持に努め、また、在校生、保護者のご理解とご協力により、滞りなく移転、学習環境の継続を行うことができた。</p>

【自己評価】	4 適切	3 ほぼ適切	2 やや不適切	1 不適切
--------	------	--------	---------	-------

2 - 3 事業計画

小項目	自己評価	現状認識	課題/改善方策	参考資料
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	2	◆理事会・運営会議等により決定した運営方針に従い、各部署で事業計画を作成し、教職員間で情報の共有化を図っている。	◆事業計画の作成について、期限・数値化・具体化していないものがあり、目標に対する成果の検証が困難な事項があった。 ◆事業計画の進捗状況について、運営会議での報告・検証に留まり、教職員への情報共有が不十分な状況が見られた。	・事業計画等に関する資料

中項目総括	特記事項〔特徴・特色・特殊な事情等〕
◆学校運営に関する運営会議において、報告事項が中心となり、その事象に至った原因や指導過程、あるいは資格・検定試験等の実績に対する検証が乏しい面があったため、その課題解決についての具体的行動や指針が不明瞭となる面があった。	◆マネジメントする者と現場担当者の意思疎通が不十分だったことにより、学校の問題点としてくみ取れなかったことは今後の反省点であり、次年度へ活かしたい。

【自己評価】	4 適切	3 ほぼ適切	2 やや不適切	1 不適切
--------	------	--------	---------	-------

2-4 運営組織

小項目	自己評価	現状認識	課題/改善方策	参考資料
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか。	4	◆8月を除く毎月末に理事会を開催し、寄付行為に基づく組織運営の状況確認や検証、協議を行っている。	◆特になし	・理事会議事録
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか。	2	◆毎年度、各部署の役割や関係、主管教職員の氏名が記載された組織図が示されている。	◆組織図は毎年度更新され、当該年度の方向性や各部署の役割を示しているにもかかわらず、各人へ伝わり方が不十分であった。今後、個人ごとの面接等を活用し意図の認識の確認をしていきたい。	・組織図
	4	◆令和4年度(単年度)および令和5年以降の学校運営を見据え、部署間を超えたプロジェクトチームが結成された。各チームでは、工程表の作成と検証が定期的に行われた。 【プロジェクトチーム】 ・校舎移転 ・新たな学び方 ・国際留学生 ・キャリア教育 ・働きながら学ぶ など	◆特になし。	・プロジェクトチーム工程表

中項目総括	特記事項【特徴・特色・特殊な事情等】
◆組織図にある主管教職員以外の教職員について、その位置付けや役割を示すべき運営責任者の組織形成やマネジメント能力の欠如から、年度当初、教職員に混乱が見られた。 ◆学校運営の一部において、組織図による役割を超えてプロジェクトチームが主体的に業務を推進した。	◆特になし

【自己評価】	4 適切	3 ほぼ適切	2 やや不適切	1 不適切
--------	------	--------	---------	-------

2 - 5 人事・給与制度

小項目	自己評価	現状認識	課題/改善方策	参考資料
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ◆就業規則に基本的な事項を記載している。 ◆教職員に対し、毎年度4月の給与支給時に人事上の職位および当該年度の給与等を書面で交付している。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆基本的な人事・給与制度は整備されているが、教職員の認知度は高いとは言えず、また経年による見直しが必要と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就業規則
2-5-2 適切な採用広報を行い、必要な人材を確保しているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ◆学則に基づく教員数、職員数の確保をしている。 ◆カリキュラムに基づく適性ある教員の配置に努め、欠員ある場合は、教職員・講師からの紹介やハローワークへの公募を実施し、書類選考・面接試験の他、模擬授業試験の実施により教員の資質を見極めて採用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆年々教職員の高齢化が進行しているため、次年代層へのスムーズな業務移行が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就業規則 ・学則

中項目総括	特記事項【特徴・特色・特殊な事情等】
<ul style="list-style-type: none"> ◆学則に規定している教員数・職員数を基本に考えている。また欠員等必要ある場合は採用活動を実施し、適切な学校運営に必要な人員の確保に努めている。 ◆人事や給与等については、就業規則に基本的な規程が整備されており、総務部が主管部署として適切に運営している。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆年々教職員の高齢化が進行しており、次年代層への業務移行と育成が求められる。

【自己評価】	4 適切	3 ほぼ適切	2 やや不適切	1 不適切
--------	------	--------	---------	-------

2 - 6 意思決定システム

小項目	自己評価	現状認識	課題/改善方策	参考資料
2-6-1 意思決定システムを整備しているか。	4	◆学校法人並びに学校の意思決定については、理事会・運営会議・組織図等により整備している。	◆特になし	・寄付行為 ・就業規則 ・組織図

中項目総括	特記事項【特徴・特色・特殊な事情等】
<p>◆学校法人の運営に関する意思は、理事会で協議した後に議決を経て決定することが明確になっている。また理事会における議事内容は、評議員会での協議と情報が共有されている。</p> <p>◆学校の運営に関する意思は、運営会議において協議した後に決定することが明確になっている。</p>	◆特になし

【自己評価】 4 適切 3 ほぼ適切 2 やや不適切 1 不適切

2-7 情報システム

小項目	自己評価	現状認識	課題/改善方策	参考資料
2-7-1 情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ◆学生管理については令和3年度より新システム (info Clipper) による運営を実施している。また学生募集広報については令和4年度より新システムで運用している。 ◆個人情報保護の観点から、書類や紙面による保管からデータによる保管へ随時移行している。 ◆教職員間の連絡は Slack による運営が定着した。また教職員全員に Chromebook が配布され、活用度も向上してきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆校舎内の一部で通信環境が不通になる箇所があるため、更なる整備が必要である。 ◆Chromebook の基本的な操作研修が3回実施されたが、使用頻度の差により教職員間でのスキル差が見られる。 	

中項目総括	特記事項 [特徴・特色・特殊な事情等]
<ul style="list-style-type: none"> ◆「新たな学び方を学ぶ」方針のもとに、全学科とも一定レベルでのオンライン授業の体制を確立した。今後は学生からの意見や要望をヒヤリングし、更なる授業レベルのアップをめざしたい。 ◆学籍管理システムにおいて、当初設定した管理権限が崩れているため再構築が必要である。また初歩的な問題として、入力方法や入力時期 [期限] の問題も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆学籍管理システムは、GPA や給付型奨学金の基準となる単位や成績を管理するとともに専門士付与の根幹をなすものであることから、管理権限者の指定と学内ルールの再構築が必要である。

【自己評価】	4 適切	3 ほぼ適切	2 やや不適切	1 不適切
--------	------	--------	---------	-------

基準3 教育活動

大項目総括

教育活動については以下の通りである。

◆本校は、教科教育として、「仕事に必要な知識やスキルをわかりやすく教授すること〔資格・検定試験、公務員試験を含む〕」並びにキャリア教育として、「経済的な独立と社会を生きる力を養うこと」をめざし、これらを実践・実現する唯一の方法がカリキュラム編成であると認識している。

◆本校へ入学してくる学生は、高校新卒のみならず社会人経験者や大学中退等があり、入学時に行うオリエンテーションの授業は、これら混在する学生を同一方向・同一目的へと平準化するための、2年間で最も重要な期間として認識している。

◆少人数制による授業運営のメリットを活かし、「わからないことは明日に持ち越さない」指導方針のもと、いつでも気軽に質問や相談ができる環境を整備している。またこれらの活動を日々実践することは、授業内容の理解不足から派生する登校不良や成績不良となる学生を輩出しないことにつながると確信している。

3 - 8 目標の設定

小項目	自己評価	現状認識	課題/改善方策	参考資料
3-8-1. 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか。	3	◆毎年度、各学科の責任者が教育課程表の見直しと作成を行っている。また教育効果を前提に、対面授業とリモート授業との区分を明確にし、学生が混乱しないように努めている。	◆特になし	・学則 ・教育課程表
3-8-2 学科ごとの修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか。	3	◆入学時および進級時のオリエンテーションや初回の授業において、履修科目の内容やその目的、目標とする資格や単位付与の基準について説明し、学習意義の理解や学習意欲の促進に努めている。	◆特になし	・教育課程表

中項目総括	特記事項【特徴・特色・特殊な事情等】
<p>◆教育課程（カリキュラム）の編成は、社会や時代のニーズに合うことを前提に、卒業後、職場や生活で活かせるものをめざしている。</p> <p>◆入学時にオリエンテーションを実施し、履修科目、成績評価の方法、学習到達目標、資格試験の意義等について説明している。</p> <p>◆進級時においてもオリエンテーションを実施し、上記同様に対応している。また卒業年次であることから、個人別に所要単位数の確認を行い、必要に応じて個別面談により卒業への意思と行動確認を実施している。</p> <p>◆リモート授業については、通信環境の確認や操作方法の理解からスタートし、現況では特に問題なく実施できている。</p>	◆特になし

【自己評価】 4 適切 3 ほぼ適切 2 やや不適切 1 不適切

3 - 9 教育方法・評価等

小項目	自己評価	現状認識	課題/改善方策	参考資料
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか。	3	◆教育課程の編成に際しては、前年度の教育効果等を検証した上で、教育目標・目的を明確にするともに設定科目等の見直しを実施している。	◆特になし	・教育課程表
3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか。	2	◆夜間部の提携企業や就職関係の企業担当者より適宜ヒヤリングを実施し、具体的に教育課程に組み入れたケースもあったが、近年は指摘を受ける機会が少なくなった。	◆外部講師からのヒヤリングを随時行う。	・教育課程表 ・学生ハンドブック
3-9-3 キャリア教育を実施しているか。	3	◆キャリア教育は、2年間を通してのカリキュラムになっている。その内容は単に就職試験対策ではなく、「社会を知る」「経済的に自立した生活の実現」をテーマに諸税や社会保険、資産形成までトータル的に実施している。	◆初期のキャリア形成を実現するための職業選択力の育成。	・オリジナルテキストを作成中
3-9-4 授業評価を実施しているか。	3	◆学生に対して授業評価のアンケートを実施している。その結果により教授方法や授業内容を検討し、教員研修等の場で共有している。	◆特になし	・授業評価アンケート

中項目総括	特記事項〔特徴・特色・特殊な事情等〕
<p>◆夜間部の提携企業や就職関係の企業担当者へのヒヤリングを日常的に実施し、教育課程の参考にしている。</p> <p>◆キャリア教育は、単なる就職試験対策ではなく、人生100年時代をキーワードに、職業（仕事）と生活（お金）の両面から国の方向性や考え方を含めた授業を実施している。</p> <p>◆学生に対する定期的な授業アンケートを実施し、教授方法や授業内容の改善につなげている。</p>	◆特になし

【自己評価】	4 適切	3 ほぼ適切	2 やや不適切	1 不適切
--------	------	--------	---------	-------

3 - 10 成績評価・単位認定等

小項目	自己評価	現状認識	課題/改善方策	参考資料
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか。	4	◆成績評価や修了認定の基準は学則に規定し、出席率、定期試験の結果等により客観的数値に基づき運用している。また、学生への周知も実施している。	◆特になし	・学則
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか。	3	◆学科コースによりその機会についての有無は異なるが、該当する授業科目においては適切に把握している。	◆特になし	

中項目総括	特記事項〔特徴・特色・特殊な事情等〕
<p>◆成績評価や修了認定の基準は学則に規定があり、その規定に基づき適正に運用している。</p> <p>◆学生の履修状況は日常的に管理し、評価基準に達しない可能性がある学生に対しては、個別指導や個別補講を実施している。</p>	◆特になし

【自己評価】 4 適切 3 ほぼ適切 2 やや不適切 1 不適切

3 - 11 資格・免許取得の指導体制

小項目	自己評価	現状認識	課題/改善方策	参考資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で明確に位置付けているか。	4	◆教育課程に基づく資格・免許は、学校案内やホームページに掲載するとともに、学生に対しては、入学時や進級時のオリエンテーションで周知している。	◆特になし	・学校案内 ・ホームページ ・教育課程表
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか。	3	◆基礎的事項から試験対策レベルまで各科目ともシラバスを作成し、計画的に履修する体制になっている。 ◆答案練習により本試験対策を実施し、学生の理解度によって補講等により合格へのサポートを実施している。	◆出題範囲や出題傾向等の対策は、継続して実施する必要がある。	・シラバス

中項目総括	特記事項【特徴・特色・特殊な事情等】
<p>◆最初の授業において、資格取得の意義、将来の活用、履修スケジュール等について説明し、学習意欲の促進を図っている。</p> <p>◆資格試験である以上1点の差で合否が決定するため、基礎的な内容について確実に理解することを目標とし、特にミニテスト等により苦手分野を作らない指導を心がけている。</p> <p>◆基礎的部分に試験対応力が必要であることから、過去問題の出題傾向を分析した答案練習を繰り返し実施している。</p> <p>◆学生との双方向授業を心がけ、いつでも質問に対応できる環境整備により合格までのサポートを実施している。</p>	◆特になし

【自己評価】	4 適切	3 ほぼ適切	2 やや不適切	1 不適切
--------	------	--------	---------	-------

3 - 12 教員・教員組織

小項目	自己評価	現状認識	課題/改善方策	参考資料
3-12-1 資格・免許を備えた教員を確保しているか。	3	◆該当科目については、資格・免許等を備えた専任教員または兼任教員が担当している。	◆特になし	・学則
3-12-2 教員の資質向上への取り組みを行っているか。	3	◆外部研修への参加、他の教員の授業見学、学内での事例研修等により、教員としての資質・講義力・学生対応力について日常的に取り組んでいる。	◆特になし	
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか。	3	◆組織図により、担当業務や教員間の職制が明確になっている。	◆教員の有効的配置の面から、労務環境に留意しつつ昼夜を横断した組織体制が必要である。	・組織図

中項目総括	特記事項【特徴・特色・特殊な事情等】
<p>◆教員の講義力は、学生の理解度に直結するため授業評価アンケートの結果により適切に指導・研修を実施している。また授業評価の高い教員の授業見学等により、教務力の向上に努めている。</p> <p>◆教員の専門性を拡張するため、経済的支援を含めて新規科目の啓発と資格取得を奨励している。</p> <p>◆出席率等の実績から特別な指導を要する学生については、教務内で情報を共有し、保護者への連絡も含めて対応している。また留学生については学生課と連携し、在留資格の適正管理に努めている。</p>	◆特になし

【自己評価】 4 適切 3 ほぼ適切 2 やや不適切 1 不適切

基準4 学修成果

大項目総括

学修成果については以下の通りである。

- ◆入学時および進級時のオリエンテーションにおいて、履修科目に対する明確な意識づけを行い、また学修成果を出すために積極的な授業参加を周知している。
- ◆小規模校としてのメリットを最大限に活かすため、「わからないことを明日に持ち越さない」を基本に、いつでも相談や質問できる環境を整備し、教育面はもちろん、学修成果を生み出す基本となる生活面においてもサポートしている。
- ◆多くの学校から本校を選択した学生に対し、各自が目標とする学修成果を実現することは、学校として最も重要な責務であることを全教職員が認識し、そのために最善と判断した行動を即時実行することを心がけている。
- ◆就職指導については、単なる試験対策のためのテクニク的な指導ではなく、「社会を知ること」「仕事を知ること」「自分を知ること」を通して、早期離職の防止による初期のキャリア形成を実現するため、「自分に合った企業への就職」を目標に指導している。また、経済的に自立した生活を目指し、諸税や社会保険の制度やしきみ、自身のライフイベントへの資産形成も履修している。
- ◆学生に対する指導記録は、学修レベルによる学修成果のデータのみならず、課題ある学生に対するケース別の指導過程や指導結果を記録した重要なデータであり、今後も継続して実施していく。

4 - 13 就職率

小項目	自己評価	現状認識	課題/改善方策	参考資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ◆民間就職希望の日本人学生は、内定率100%を達成した。[年度末に病氣療養のため1名の内定辞退があった] ◆留学生の内定率は65%程度だった。 ◆公務員就職は、対象学生全員が教養試験に合格したが、2次試験で若干名の不合格者が出た。 ◆上記は、いずれも前年度の数値を超える結果であった。 	◆留学生に対する日本の就職事情の十分な理解が必要である。	・進路実績

中項目総括	特記事項【特徴・特色・特殊な事情等】
<ul style="list-style-type: none"> ◆就職指導は、単に内定を得るためのテクニック的な指導ではなく、社会や仕事に関する知識を深めることにより、「自分に合う会社」への就職を目標にしている。 ◆就職率は民間企業〔日本人・留学生〕公務員ともに前年を超える実績だったが、留学生に対する指導においては、「在留資格を含めた日本の就職事情の理解」が課題として挙げられる。 	◆就職指導の目標は「初期のキャリア形成の実現」であり、その成果についての検証は最短でも5年程度後になり、またその検証方法についても工夫が必要である。

【自己評価】	4 適切	3 ほぼ適切	2 やや不適切	1 不適切
--------	------	--------	---------	-------

4 - 14 資格・免許の取得率

小項目	自己評価	現状認識	課題/改善方策	参考資料
4-14-1 資格・免許取得率の向上が図れているか。	2	<ul style="list-style-type: none"> ◆資格・免許の取得率について、一定の実績は出ている。 ◆一方で、学生の履修状況や資格取得への意欲の問題もあるが、前年度の数値と比較して良好な状況とはいえない。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆理想とする合格目標は100%であるが、実質的な目標値の計画が必要である。 ◆経年実績から合格率が向上していない資格試験については、原因追求と必要に応じて教育課程またはシラバスの見直しが必要である。 	

中項目総括	特記事項【特徴・特色・特殊な事情等】
<ul style="list-style-type: none"> ◆事業計画等において、各資格・検定試験の合格数や合格率の目標が不明であり、実績数値についても情報共有の仕組みがないため改善が急務である。 ◆各資格・検定試験対策において、補講等の対策を熱心に実施した教員がいる一方、特にそのような行動が見られない教員もあり、合格に向けての組織体制が未熟であった。 ◆非常勤講師に授業を一任している感があり、専任教員と一体となって合格率の向上に向き合う姿勢が不足していた。 	◆特になし

【自己評価】	4 適切	3 ほぼ適切	2 やや不適切	1 不適切
--------	------	--------	---------	-------

4 - 15 卒業生の社会的評価

小項目	自己評価	現状認識	課題/改善方策	参考資料
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか。	2	<p>◆卒業生の動向については、現状学校から就職先の企業に対して積極的なアプローチはしていない。</p> <p>◆卒業生が就職した会社から求人依頼等の連絡があった場合に、就業状況について情報交換をしているが、対象となる人数は少ない。</p>	<p>◆キャリア教育は、「初期〔5年程度〕のキャリア形成の実現」を目標にしているため、今後、就職先の企業または卒業生に対して就業状況の確認を直接的にアプローチする必要がある。</p>	・進路実績

中項目総括	特記事項〔特徴・特色・特殊な事情等〕
<p>◆採用担当者から求人情報と共に卒業生リストを提示いただく企業もあるが、全体的な状況を把握するに全く不十分である。</p> <p>◆ある程度整備された同窓会のような組織があれば情報把握に活用することも可能であるが、現状、学校からのアプローチはしていない。</p> <p>◆キャリア教育については「初期のキャリア形成の実現」を掲げている以上、その状況の把握は必須である。また離職した学生がいる場合には、退職理由やその後の就業状況について知ることで以降のキャリア教育に活かしたい。</p>	◆特になし

【自己評価】 4 適切 3 ほぼ適切 2 やや不適切 1 不適切

基準5 学生支援

大項目総括

学生支援については以下の通りである。

- ◆学校の主体は学生であり教職員はあくまで支援者である。支援者たる教職員の最大の使命は、資格検定試験の合格・民間就職・公務員就職等、学生個々の目標を達成に導くために、日々の授業や生活指導等を適切に実施することを強く認識している。
- ◆日常的な学生支援は担任教員が行い、内容や必要に応じて他の教職員が支援する体制をとっている。
- ◆経済的な支援として、学費の納付金額や方法、納付期日の変更等、ご家庭や本人の事情を最大限に配慮している。
- ◆学業の継続や提携企業での就業が困難になりつつある学生に対しては、個別面談の実施や保護者との連絡を密に取りながら必要な措置を講じ、進級あるいは卒業への道筋を示しサポートしている。

5 - 16 就職等進路

小項目	自己評価	現状認識	課題/改善方策	参考資料
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか。	3	<p>◆就職等進路については、担任教員による定期的な個人面談を通して、本人の目標や希望の実現に向けて指導をしている。</p> <p>◆上記以外にも、本人からの申し出や必要ある場合には適宜、個人面談を実施し、内容によっては保護者とも情報を共有している。</p> <p>◆就職等進路の支援は、担任教員とは別にキャリア課職員も対応しており、学生が自由に相談できる体制になっている。</p>	◆特になし	<ul style="list-style-type: none"> ・学校案内 ・ホームページ

中項目総括	特記事項【特徴・特色・特殊な事情等】
<p>◆就職等進路については、担任教員が中心的に指導や相談に応じ、キャリア課職員がサポートする体制ができている。</p> <p>◆キャリア教育により、新たな仕事や職業を発見する機会を提供し、「自分に合う会社〔進路〕」を選択できる力を養っている。</p> <p>◆具体的な進路対策は、授業時間に限定することなく担任教員やキャリア課職員が対応している。</p>	◆特になし

【自己評価】 4 適切 3 ほぼ適切 2 やや不適切 1 不適切

5 - 17 中途退学への対応

小項目	自己評価	現状認識	課題/改善方策	参考資料
5-17-1 退学率の低減が図られているか。	3	<p>◆出席率の悪化が退学に至る最大の要因であることから、担任教員は毎日の出席率を確認するとともに、低下傾向にある学生に対しては、適宜、面談を実施し、必要に応じて保護者との情報共有を図っている。</p> <p>◆授業料等の納付に経済的な問題がある学生に対しては、納付金額や納付期日の変更にも柔軟に対応している。</p> <p>◆夜間部において就業と学業との両立が困難になった場合は、就業先の変更や昼夜間での学籍異動も視野に対応している。</p>	<p>◆退学率低減には、学習意欲や進路意欲の継続が重要であり、それぞれの教育活動が自身の将来につながることを認識できるような指導を心がけている。</p>	<p>・出席簿</p> <p>・学生指導記録</p>

中項目総括	特記事項【特徴・特色・特殊な事情等】
<p>◆生活状況の変化は出席率の低下につながることから、可能な限り事前に察知して適切な指導を実施することにより、退学の低減に努めている。</p> <p>◆長期休暇期間がスタートする前に、担任教員より休暇期間中の過ごし方や注意すべき点を学生に周知させている。</p> <p>◆夜間部では、入学時より3ヵ月程度の間には就業と学業との両立が困難になるケースが多いため、職場訪問やシフト体制の確認を実施している。</p>	<p>◆特になし</p>

【自己評価】	4 適切	3 ほぼ適切	2 やや不適切	1 不適切
--------	------	--------	---------	-------

5 - 18 学生相談

小項目	自己評価	現状認識	課題/改善方策	参考資料
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか。	4	<p>◆日常的な学生からの相談は、担任教員が個人面談あるいはメール等により即時に対応している。</p> <p>◆担任教員は、学生からの相談内容によって主管する部署に引き継ぎ、当該教職員が適切に対応している。また学生が直接主管する部署の教職員に相談することも可能である。</p>	◆特になし	・学生指導記録
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか。	4	◆留学生からの相談においても、上記同様に対応している。	<p>◆日本語の会話力に心配な留学生に対しては、同国出身の留学生が仲立ちする場合もある。</p> <p>◆令和4年9月に中国籍で日本語能力の高い職員を採用した。</p>	・学生指導記録

中項目総括	特記事項【特徴・特色・特殊な事情等】
<p>◆学生からの相談は、その場または当日中に対応することを原則とし、内容に応じて学生指導記録に記載している。</p> <p>◆相談内容によっては、担任教員以外の教員や他部署の教職員と情報を共有し、学校としての相談体制を構築している。</p> <p>◆必要に応じて保護者との情報共有も図っている。</p> <p>◆留学生の在留資格更新や変更については、入管担当の教職員が直接、相談に応じるとともに必要な指導をしている。</p>	◆特になし

【自己評価】 4 適切 3 ほぼ適切 2 やや不適切 1 不適切

5 - 19 学生生活

小項目	自己評価	現状認識	課題/改善方策	参考資料
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか。	4	◆納付金額や納付期日の変更等、学生の経済的事情や家庭の環境に応じて極めて柔軟な対応をしている。	◆特になし	・学費納入に関するパンフレット等
5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか。	4	◆毎年4月に学生の健康診断を実施している。また当日欠席した学生は、指定日に本校の指定医療機関に向いて受診している。 ◆健康診断の結果、医療行為が必要な学生には、当該医療機関または学校医より適切な医療機関を紹介している。	◆特になし	・健康診断結果記録
5-19-3 学生寮の設置などの生活環境支援体制を整備しているか。	3	◆本校が所有している学生寮はないが、事業会社との提携により希望する学生は入寮できる体制がある。 ◆夜間部学生を対象に、自力進学を支援する趣旨で、入寮費や寮費について経済的な支援をいただいている。 ◆学生寮以外の住まいを希望する学生には、本校が提携している不動産会社を紹介している。	◆特になし	・学生寮のパンフレット
5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか。	1	◆クラブやサークル活動等の課外活動は実施していない。	◆現時点で実施する予定はない	

中項目総括	特記事項〔特徴・特色・特殊な事情等〕
<p>◆本校は学生寮を所有していないが、住まいを希望する学生には提携の事業会社が運営する学生寮や不動産会社を紹介できる。</p> <p>◆入寮している学生に関する情報は、寮長や事業会社の担当者より適宜連絡がある体制になっている。</p> <p>◆成年年齢の引き下げによる契約トラブルの当事者にならないよう、キャリア教育の授業内でも注意喚起している。</p>	◆特になし

【自己評価】	4 適切	3 ほぼ適切	2 やや不適切	1 不適切
--------	------	--------	---------	-------

5 - 20 保護者との連携

小項目	自己評価	現状認識	課題/改善方策	参考資料
5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか。	4	<p>◆保護者に対しては、前期・後期終了後に学生の成績評価に担任教員のコメントを付して郵送している。</p> <p>◆学生の生活状況や出席状況に問題が認められる場合は、早期に保護者と情報を共有化し、場合によっては保護者から学生への助言を依頼している。</p>	<p>◆学生に対する保護者の関心度が低いケースが見られる。[学校に一任]</p>	<p>・学生指導記録</p>

中項目総括	特記事項〔特徴・特色・特殊な事情等〕
<p>◆保護者に対しては、年2回、学習成果と担任教員のコメントを郵送し、学校生活の状況について情報を共有している。</p> <p>◆保護者から相談があった場合は、誠実さとスピード感をもって対応することを行動指針としている。令和4年度中にクレームやトラブルは発生していない。</p>	<p>◆特になし</p>

【自己評価】	4 適切	3 ほぼ適切	2 やや不適切	1 不適切
--------	------	--------	---------	-------

5 - 21 卒業生・社会人

小項目	自己評価	現状認識	課題/改善方策	参考資料
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか。	2	<p>◆卒業生対象の明確な支援体制や制度はないが、就業や再就職に関する相談があった場合は対応している。</p> <p>◆就職活動継続のビザを取得した留学生については、活動状況や内定報告等の情報交換を定期的実施している。</p>	◆卒業生の支援体制として明確に制度化することを検討〔卒業式等で告知〕	
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか。	1	◆現状、産学連携による在校生の教育プログラムはあるが、卒業生を対象とするものはない。	◆卒業生に限定することなく社会人向けのリカレント教育は、時代の流れもあり実施の方向性で検討すべき事項である。	
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか。	3	◆行政からの委託事業として、離職者を対象に再就職をめざす講座を開講しているが、令和4年度は前年度と比較し講座実績数が増加した。	◆行政からの委託事業のため、受注成果によるところが大きい。	・教育訓練講座パンフレット

中項目総括	特記事項〔特徴・特色・特殊な事情等〕
<p>◆卒業生からのアプローチは、主として卒業時の担任教員経由の場合が多いため、一次的な相談に対応しているが、相談内容によっては他部署の教職員とも連携している。</p> <p>◆卒業生を含めた社会人に対するリカレント教育は、時代の流れでもあることから、実施の方向性での検討が必要である。</p> <p>◆離職者向けの委託訓練講座は、新たな講座内容での実施も含めて、前年度より開講数が増加した。</p>	◆特になし

【自己評価】 4 適切 3 ほぼ適切 2 やや不適切 1 不適切

基準6 教育環境

大項目総括

教育環境については以下の通りである。

- ◆2022年9月に仮校舎から新校舎に移転した。一部移転後のレイアウト変更もあったが、内装をはじめ、机や椅子等の教育機器備品類も新規に準備され、かなり良好な教育環境となった。
- ◆校舎内のWi-fi環境について、場所により通信状態が不安定になるケースが見られる。
- ◆常時、防犯カメラによる監視・録画が行われているので安全管理面では向上したが、防災管理面においては、災害発生時の行動指針や教職員の役割分担、避難訓練の実施や広域避難場所の周知等が不完全であり、学校内のルール作りを含めた対応が必要である。

6 - 22 施設・設備等

小項目	自己評価	現状認識	課題/改善方策	参考資料
6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ◆新校舎においては、新規に机・椅子等の教育機器備品類が準備されたので、教室内はとても清潔感ある雰囲気になっている。 ◆Wi-fi 環境も整備されているが、一部で通信状態が良好ではない場所がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆Wi-fi 環境の整備 ◆所有図書を増冊 	

中項目総括	特記事項〔特徴・特色・特殊な事情等〕
<ul style="list-style-type: none"> ◆新校舎移転に際しては、専修学校設置基準に基づく千代田区教育委員会による視察があった。 ◆校舎内の教育機器備品類は新規に準備されたものが配置され、一部に Wi-fi 環境の改善が必要となる部分もあるが、総じて教育環境は良好といえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆千代田区教育委員会の視察において、所有図書の冊数についての指摘があった。〔増冊が必要〕

【自己評価】 4 適切 3 ほぼ適切 2 やや不適切 1 不適切

6 - 23 学外学習・インターンシップ等

小項目	自己評価	現状認識	課題/改善方策	参考資料
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか。	3	<p>◆学外学習は、新型コロナの影響により学校の判断で実施していない。</p> <p>◆インターンシップは、夜間部課程のカリキュラムの一部として組み込まれており、25年程度の実績がある。</p> <p>◆海外研修は、学生や保護者の経済的環境が参加の有無に大きく影響することから、現状の学生数規模では実施しない。</p>	◆実施状況は、新型コロナの影響によるものである。	・教育課程表

中項目総括	特記事項【特徴・特色・特殊な事情等】
<p>◆学外実習は、新たな知見やクラス内・学校内のコミュニケーション形成に大きく寄与するものであるが、新型コロナの影響により実施を見送った。</p> <p>◆インターンシップは、夜間部課程のカリキュラムの一部として組み込まれている。</p> <p>◆海外研修は、日本での生活との比較検討や新たな経験という面での効果はあるが、経済的理由により参加の有無が決定する面もあり、現状の学生数規模での実施はマイナス効果しか生まない。</p>	◆特になし

【自己評価】 4 適切 3 ほぼ適切 2 やや不適切 1 不適切

6 - 24 防災・安全管理

小項目	自己評価	現状認識	課題/改善方策	参考資料
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか。	2	◆教職員の内心的な防災意識はあると思うが、組織体制として目に見える形での計画書の提示や活動には不十分な面がある。	◆防災に対する組織体制の構築	・防災計画
6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか。	3	◆学校内で安全を阻害する要因がある場合は、担当部署が即時に除去または業者に依頼し、学生や教職員の安全性の確保に努めている。また在校生全員が学生総合保険に加入している。	◆特になし	

中項目総括	特記事項〔特徴・特色・特殊な事情等〕
<p>◆教職員に対して、防災計画等による組織体制の提示がないため、災害発生時の役割や準備面での不十分さがあり、早急に対応すべき事項である。</p> <p>◆教職員全員が「安心安全な学校づくり」を意識しており、改善すべき事項を提言しやすい職場環境にある。また担当部署は、提言事項に基づき早急に対応している。</p>	◆特になし

【自己評価】	4 適切	3 ほぼ適切	2 やや不適切	1 不適切
--------	------	--------	---------	-------

基準7 学生の募集と受入れ

大項目総括

学生の募集と受入れについては以下の通りである。

- ◆学生募集に関する広報は、ホームページ・学校案内・DM・SNS等により実施している。
- ◆広報は、保護者や高校の先生も対象にしているが、主は高校生や既卒生であることを強く認識し、事実と反することや誤解を招くような表現は一切使用していない。また質問等があった場合は、相手目線での受け答えに注意している。
- ◆普通高校に限定することなく、通信制や定時制の高校も同等に広報していく。
- ◆新型コロナの影響により、日本に在留する留学生数が減少している一方、普通高校の定時制には外国にルーツがある学生が増加傾向にあり、本校の留学生管理の経験を活かした募集活動を実施している。

7 - 25 学生募集活動

小項目	自己評価	現状認識	課題/改善方策	参考資料
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ◆入学実績や比較的就職希望の生徒が多い高等学校を中心に、学校案内等の情報提供を実施した。 	◆新型コロナによる影響が継続した。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校案内 ・入学募集要項 ・オープンキャンパス情報 ・ホームページ
7-25-2 学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ◆高校生、保護者、高等学校教員等からの質問には、誇大表現をすることなく現状の教育成果等を説明している。 ◆オープンキャンパスや在校生の実績等の情報は、LINE等のSNSを重点に広報し、郵送によるDMを減少させた。 	◆特になし	・SNSによる情報提供
7-25-3 留学生の受入れについても戦略をもって行っているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ◆新型コロナの影響により、募集対象となる日本語学校に在籍している留学生が激減している中、本校への進学実績が多い日本語学校を中心に訪問による広報を実施した。 ◆中国籍向けのSNSを活用した学校広報を実施し、多数の問い合わせに対応した中で、出願に至ったケースも見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆新型コロナによる影響が継続した。 ◆同分野の専門学校や大学在籍者、あるいは在留資格の変更を伴う外国人からの出願が目立った。 ◆SNSの運用は、2022年9月に採用した中国籍の職員が担当した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生用学校案内 ・SNSによる情報提供

中項目総括	特記事項【特徴・特色・特殊な事情等】
<ul style="list-style-type: none"> ◆学生募集は、ホームページや学校案内を基本に、SNSによる情報提供を実施している。 ◆高校生・保護者・高等学校教員等からの問い合わせについては、誇大表現による広報を禁じ、わかりやすさと正確さを基本とした回答や情報を提供している。 ◆留学生の募集については、日本語学校の教員からの紹介を維持しつつ、特に中国籍の留学生に対しては、SNSを活用した広報を実施した。 	◆学生募集の主としていた、地方の高等学校および留学生について、新型コロナの影響が継続し、出願数は前年度を維持する程度となった。

【自己評価】	4 適切	3 ほぼ適切	2 やや不適切	1 不適切
--------	------	--------	---------	-------

7 - 26 入学選考

小項目	自己評価	現状認識	課題/改善方策	参考資料
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ◆入学選考の方法や基準については、ホームページや入学募集要項に詳細に掲載している。 ◆入学選考の過程や結果については、所定の書類に記録している。 	◆特になし	<ul style="list-style-type: none"> ・入学募集要項 ・ホームページ
7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ◆入学者を担当する担任教員は、出願書類や入学選考の過程を記載した書類を確認し、個人面談と共に入学後の生活指導や授業指導に活かしている。 ◆留学生については、入学後に日本語能力レベルを再確認し、授業指導に活かしている。 	◆特になし	<ul style="list-style-type: none"> ・出願書類 ・入学選考記録

中項目総括	特記事項〔特徴・特色・特殊な事情等〕
<ul style="list-style-type: none"> ◆入学選考の方法や基準については、ホームページや入学募集要項にその内容を詳細に掲載している。 ◆出願者に対しては、選考基準に従い書類選考あるいは面接試験を課し、公平な選考を実施するとともに、その過程について記録している。 ◆出願時の書類や選考過程の記録については、入学後の担任教員も情報を共有し、適切な生活指導と授業指導に活用している。 	◆特になし

【自己評価】	4 適切	3 ほぼ適切	2 やや不適切	1 不適切
--------	------	--------	---------	-------

7 - 27 学納金

小項目	自己評価	現状認識	課題/改善方策	参考資料
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定している。	3	◆事業実績や計画に伴う教育経費および管理経費の状況により学納金を決定し、学則に規定している。	◆新型コロナの影響や物価高への対応として、令和6年4月入学者より学納金の変更を検討している。	・入学募集要項 ・学則
7-27-2 入学辞退者に対する授業料等について、適切な取り扱いを行っているか。	4	◆入学辞退者に対する授業料等の取扱いは、入学募集要項やホームページに具体的に掲載し、該当者がいる場合には適切に対応している。	◆特になし	・入学募集要項 ・ホームページ

中項目総括	特記事項〔特徴・特色・特殊な事情等〕
<p>◆学納金は、学校運営上の基本収入であり、実績や計画等に基づき適切に算定しており、金額等を変更する場合は、理事会の決議事項となっている。</p> <p>◆新型コロナの影響や物価高への対応として、令和6年4月入学者より、国際経営ビジネス学科を除く昼間部・夜間部の学納金の見直しに着手している。</p> <p>◆学納金については、入学辞退時の取扱いはもちろん、特に規定していない場合でも、本人あるいはご家庭の経済的環境を十分配慮し、分納や納付期限の延長等に対応している。</p>	◆特になし

【自己評価】	4 適切	3 ほぼ適切	2 やや不適切	1 不適切
--------	------	--------	---------	-------

基準8 財務

大項目総括

財務については以下の通りである。

- ◆ 予算計画書並びに決算書類等、学校法人として作成すべき財務書類を規定通りに作成している。また理事会においては各種書類に関する説明・質疑応答・決議等の手続きが適正に行われている。
- ◆ 学校法人の運営については、監事より理事会に対し、「適正な運営である」旨の文言が記載された監査報告書の提出と宣誓が行われている。
- ◆ 月次の理事会においては、予算計画書に対する執行状況について理事長が説明を行い、質疑ある場合には誠実に応対している。
- ◆ 月次の運営会議においては、予算計画書の対する執行状況について担当者からの説明と質疑応答が行われている。
- ◆ 財務書類等については本校のホームページに公開している。

8 - 28 財務基盤

小項目	自己評価	現状認識	課題/改善方策	参考資料
8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか。	3	<p>◆新型コロナの感染や修学支援新制度により入学者数が定員に達していない状況が継続しており、学生生徒納付金収入が減少している。</p> <p>◆外部負債の消滅と適正な学校規模への変換のための校地校舎の再構築により、経常経費を支弁するための現預金残高は十分であり、現状、経営自体への問題はない。</p>	◆適切な学生募集活動による入学定員に対する充足率の向上が喫緊の課題である。	・財務書類
8-28-2 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか。	3	◆経営数値については、担当部署が月次管理しており、当該月の実績や予測等について理事会で報告されている。	◆特になし	・財務書類

中項目総括	特記事項【特徴・特色・特殊な事情等】
<p>◆新型コロナの影響や修学支援制度の普及により、学生募集の主要対象者であった地方出身者や留学生の入学者数の減員が学生生徒等納付金の減収に影響しており、事業活動収支はマイナスが継続している。</p> <p>◆外部負債の消滅や学校運営上の適正規模化による校舎移転計画により、旧校舎の校地校舎の売却金額と新校舎の校地校舎の取得金額の差額により、当面の運営資金自体は十分確保しているため、経営上の問題はない。</p>	◆今後の学校運営は、学生生徒等納付金による事業活動収支のプラス化のため、入学定員に対する充足率の向上が必須である。

【自己評価】 4 適切 3 ほぼ適切 2 やや不適切 1 不適切

8 - 29 予算・収支計画

小項目	自己評価	現状認識	課題/改善方策	参考資料
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか。	4	<p>◆単年度予算は、各学科と部署でそれぞれの事業計画に基づき予算書を作成し、法人本部が確認の上、取りまとめている。</p> <p>◆予算計画書は、暫定予算と年度開始学生数を加味した確定予算の2種類を作成し、いずれも理事会において承認の後に執行している。</p> <p>◆中期計画については、理事長が事業の方向性をプロジェクト化し、事業計画に基づく具体的な工程表の作成や予算化をしている。</p>	◆特になし	<p>・予算書</p> <p>・理事会議事録</p> <p>・プロジェクト工程表等</p>
8-28-2 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか。	4	<p>◆予算の執行状況は、理事会における現状分析等の報告や質疑応答、並びに運営会議での各部署責任者との情報共有を行い、課題事項があれば共有している。</p>	◆特になし	<p>・予算執行状況</p>

中項目総括	特記事項【特徴・特色・特殊な事情等】
<p>◆予算計画は、暫定予算・確定予算の2種類があり、いずれも理事会において承認した後に執行している。また各月の執行状況については、理事会での報告と質疑に対応している。</p> <p>◆経営職・管理職は、運営会議で月次の予算執行の状況や年度の見通しについて把握し、問題点等がある場合には情報の共有を図っている。</p>	◆特になし

【自己評価】	4 適切	3 ほぼ適切	2 やや不適切	1 不適切
--------	------	--------	---------	-------

8 - 30 監査

小項目	自己評価	現状認識	課題/改善方策	参考資料
8-30-1 私立学校法及び寄付行為に基づき、適正に監査を実施しているか。	4	<p>◆監事は毎月の理事会に出席し、理事からの質疑があれば対応している。</p> <p>◆毎年5月の理事会では、決算承認の議事に際して監事2名より「決算内容に誤りはなく、また学校法人の活動も適正である」旨の宣誓と書面による報告が行われている。</p>	◆特になし	<p>・監査報告書</p> <p>・理事会議事録</p>

中項目総括	特記事項【特徴・特色・特殊な事情等】
<p>◆監事2名は、毎月の理事会に出席し、財務状況を把握するとともに学校法人の運営について法令や寄付行為の遵守を監督している。</p> <p>◆決算承認の議事が行われる理事会において、「決算内容の正確さと学校法人運営の適正」について、監査報告書による宣誓と説明を実施している。</p>	◆特になし

【自己評価】 4 適切 3 ほぼ適切 2 やや不適切 1 不適切

8 - 31 財務情報の公開

小項目	自己評価	現状認識	課題/改善方策	参考資料
8-31-1 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか。	4	◆財務情報は、その要約をホームページに掲載することにより公開するとともに、全財務書類については、本学園の規約に基づく閲覧権利者に対し、所定の手続きを経て閲覧に対応している。	◆特になし	・ホームページ ・財務書類等閲覧規約

中項目総括	特記事項【特徴・特色・特殊な事情等】
◆財務情報については、適切な時期に本校のホームページにその要約を公開し、また全財務書類については、来校による閲覧にも対応している。	◆特になし

【自己評価】 4 適切 3 ほぼ適切 2 やや不適切 1 不適切

基準9 法令等の遵守

大項目総括

法令等の遵守については以下の通りである。

- ◆学校法人並びに学校は、学校教育法、私立学校法、専修学校設置基準等、関係法令を遵守し、また寄付行為や学則等に従い、適切に運営されている。
- ◆その他、学校法人や学校の活動に伴う契約行為や労務管理上の法令等についても適切に管理・実行することを心がけている。

9 - 32 関係法令、設置基準等の遵守

小項目	自己評価	現状認識	課題/改善方策	参考資料
9-32-1 法令や専修学校設置基準を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	4	◆学校法人並びに学校運営に関わる法令や専修学校設置基準を遵守し、また申請・届出・報告等の諸手続きについても遅滞なく確実に実施している。	◆特になし	・ホームページ

中項目総括	特記事項【特徴・特色・特殊な事情等】
<p>◆学校法人並びに学校については、専修学校設置基準や関係法令に基づき適切に運営している。</p> <p>◆経営職・管理職をはじめ教職員全員が、関係法令順守の重要性を認識している。</p> <p>◆各種申請・届出・報告等は、担当部署が期限等を遵守し、適切に処理している。</p>	◆特になし

【自己評価】	4 適切	3 ほぼ適切	2 やや不適切	1 不適切
--------	------	--------	---------	-------

9 - 33 個人情報保護

小項目	自己評価	現状認識	課題/改善方策	参考資料
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか。	3	<p>◆個人情報は、経営職・管理職をはじめ教職員全員がその重要性について認識している。</p> <p>◆学生募集に関する個人情報については、個人情報保護方針を定め適切に対応している。</p> <p>◆就職活動における企業への個人情報の提供については、個人情報適正管理規程を作成し、適切に対応している。</p> <p>◆在校生や卒業生の個人情報は、書類による場合は鍵のある保管庫に収納しているが、順次、データによる保管へと移行している。</p>	◆特になし	<p>・ホームページ</p> <p>・個人情報保護方針</p> <p>・個人情報適正管理規程</p>

中項目総括	特記事項〔特徴・特色・特殊な事情等〕
<p>◆入学検討者・出願者・在校生・卒業生等の個人情報については、書類による場合は鍵のある保管庫に収納しておき、順次、データによる管理へ移行している。</p> <p>◆紙による個人情報は、必要な時に保管庫より取り出し、不要となった場合は、シュレッダーあるいは適正業者による機密書類専用の廃棄処分により、適切に管理している。</p>	◆特になし

【自己評価】	4 適切	3 ほぼ適切	2 やや不適切	1 不適切
--------	------	--------	---------	-------

9 - 34 学校評価

小項目	自己評価	現状認識	課題/改善方策	参考資料
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか。	3	◆自己点検・自己評価については、第三者的立場で点検・評価する教職員を選出し、原案を作成した後に各部署の代表者が評価している。	◆特になし	・自己点検評価報告書
9-34-2 自己評価結果を公表しているか。	3	◆自己点検・評価報告書はホームページに公開している。	◆特になし	・ホームページ
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し、評価を行っているか。	3	◆学校評価関係者に来校いただき、学校担当者より各項目の説明と質疑応答・意見交換をした後に評価をいただいている。	◆第三者による学校評価は、今後の学校運営の参考となる面が多く、実施回数を増加する方向で検討している。	・学校関係者評価報告書
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか。	3	◆学校関係者評価報告書はホームページに公開している。	◆特になし	・ホームページ

中項目総括	特記事項〔特徴・特色・特殊な事情等〕
<p>◆学校運営については自己満足に終わることなく、学生や第三者からの評価を真摯に受け止めるとともに、指摘事項を今後の運営に活用していくことが重要であると認識している。</p> <p>◆学校評価は、評価項目・評価者等、多方面からの評価が有効であり、評価者の増員も検討すべきと考えている。</p>	◆特になし

【自己評価】	4 適切	3 ほぼ適切	2 やや不適切	1 不適切
--------	------	--------	---------	-------

9 - 35 教育情報の公開

小項目	自己評価	現状認識	課題/改善方策	参考資料
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか。	2	◆教育情報のうち、学校概要や教育方針等についてはホームページや学校案内で公開しているが、教育成果の公開は一部に留まっている。	◆今後、一部公開されていない教育成果については改善を検討している。	・ホームページ ・学校案内

中項目総括	特記事項【特徴・特色・特殊な事情等】
◆学科コースの目標や資格試験等の情報は、学校案内・ホームページに掲載しているが、教育成果については、公務員合格や就職実績等が中心であり、資格試験や検定試験の結果についての一覧的公開は実施に至っていない。	◆特になし

【自己評価】 4 適切 3 ほぼ適切 2 やや不適切 1 不適切

基準 10 社会貢献・地域貢献

大項目総括

社会貢献・地域貢献については以下の通りである。

◆本校の専門課程は、主としてビジネス・法律・公務員に関する分野を設置しており、卒業生が企業や行政機関において活躍することが、本校に与えられた使命であり第一の社会貢献と考えている。

◆専門課程以外については、現状、行政機関からの委託により、主として離職者を対象にしたスキルアップ講座を開講し、再就職を支援する教育活動を実施している。

◆地域貢献としては、現状、特に実施しているものはないが、令和4年9月より新校舎に移転したことを機に、町内会のお祭り【お神輿の担ぎ手】等には積極的に参加する予定である。

10 - 36 社会貢献・地域貢献

小項目	自己評価	現状認識	課題/改善方策	参考資料
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	2	<p>◆本校は、卒業生が企業や行政機関の一員として活躍することが本校の使命であり、第一の社会貢献と考えている。</p> <p>◆行政機関からの委託事業である「再就職訓練講座」は、離職者の再就職を支援するものであるが、受注できた場合にのみ開講しているものである。</p> <p>◆現状、地域貢献となるものは特にないが、新校舎に移転後、町内会のお祭り等の行事に積極的に参加する予定であり、その接触もしている。</p>	<p>◆今後、現状以外の社会貢献や地域貢献について、何ができるかを検討すべきと考えている。</p> <p>◆学校は地域の一員であるべきところ、現状、記載すべき事項がないため左記の評価とした。</p>	
10-36-2 国際交流に取り組んでいるか。	3	<p>◆留学生については、公務員分野と夜間部を除く分野で受け入れている。</p> <p>◆外国の教育機関との提携等はないが、学校内において、日本人と留学生が同一の環境で勉強しており、日常的に交流を図っている。</p>	◆特になし	

中項目総括	特記事項【特徴・特色・特殊な事情等】
<p>◆本校は、卒業生が民間企業や行政機関に就職し活躍することが社会貢献に寄与していると考えている。</p> <p>◆専門課程以外の教育として、行政機関から委託している講座がある。この講座では、離職者に対するスキルアップと就職支援により再就職へ向けた社会貢献活動を実施している。</p> <p>◆地域貢献としては、現状、特に記載できる項目はないが、新校舎移転後は町内会の行事への参加を考えており、新年度の行事に向けた打ち合わせも現に実施している。</p> <p>◆国際貢献について、海外の教育機関との提携はないが、本校のクラス運営の中で実現している面はある。</p>	◆特になし

【自己評価】	4 適切	3 ほぼ適切	2 やや不適切	1 不適切
--------	------	--------	---------	-------

10 - 37 ボランティア活動

小項目	自己評価	現状認識	課題/改善方策	参考資料
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか。	1	<p>◆過年度においては一部コースの選択科目としてボランティア活動を実施していたが、現状、学校として具体的な取り組みはしていない。</p> <p>◆学生が自主的に活動しているケースも考えられるが、学校として把握はしていない。</p>	◆ボランティア活動に対する単位認定等の評価について検討したい。	

中項目総括	特記事項〔特徴・特色・特殊な事情等〕
<p>◆現在、学校としてボランティア活動については一切実施していないが、学生に対する「社会性の育成」という視点では有益であるとも考えている。</p> <p>◆正規授業の科目ではなく、キャリア教育の一環として、「社会を知る」「社会の一員として」の経験や視点から、私的活動の実績を含めて取り入れることも検討したい。</p>	◆特になし

【自己評価】 4 適切 3 ほぼ適切 2 やや不適切 1 不適切